

令和5年度 学校評価一覧表

本年度の 重点目標	★よりよい授業づくり 系統性のある教育課程の構築・障害の多様化、重度化への対応・キャリア教育・ESD活動・人権教育・食育の推進・現職研修、自主研修の充実・教師同士の連携・GIGAスクール構想の実現・教材データの共有
	★安全・安心な学校づくり マニュアルの精査・実効性のある訓練の実施・学校事故の未然防止・的確、迅速な対応・いじめの早期発見と対策・居場所づくり・人権への配慮・個人情報管理・多忙化解消
	★開かれた学校づくり 保護者との協力体制の構築・関係機関との連携・地域の教育資源の活用・校内、校外のサポート体制づくり・効果的な情報発信

項目	部	重点目標	具体的方策	留意事項	最終評価	評価結果及び今後の課題（最終）
よりよい授業づくり	小学部	目指す子ども像を実現するための自立活動の充実	・自立活動の目標を意識した授業づくりに努める。 ・必要に応じて児童一人一人に向き合える時間をつくり指導にあたる。	・目標を各教科に落とし込んでいくことができるように、目標及び手立ての学年内共有や学年を越えての実践の学び合いの場面を設定する。 ・時間における指導でやりきれない内容を補う時間を各学年裁量で設定していく。	B	・目標及び手立てについて、長期休業中等に学年間で話し合う時間を作り重点目標の共通理解を図ることができた。 ・重複障害学級では時間における指導の中で、個に応じた内容と集団を意識した内容を実施できた。 ・通常学級では各学年の実態に応じて生活単元学習や日常生活の指導の授業を中心に、自立活動の目標を意識した授業づくりに努めることができた。 ・自立活動の目標を落とし込むシステムを作ることは難しかったが、今までよりも目標を意識した授業づくりに努めることができた。
よりよい授業づくり	中学部	自立活動における時間の指導の充実	・アセスメントシートを用いた情報共有や意見交換等を行いながら年間指導計画を立案する。 ・自立課題学習において、生徒の取り組み状況を捉え、実態に即した課題開発を行う。 ・学年職員を中心に教員を配置し、生徒の課題の共有や活動内容の設定をしやすくする。	・自立活動部と情報共有を行い、必要に応じて助言を求める。 ・生徒自ら課題をやり遂げられることを重視し、生徒の自己肯定感が高まるようにする。	B	・アセスメントシートの活用に課題はあるものの、各学年で情報共有等を行いながら自立活動の年間指導計画の立案ができた。 ・各学年で生徒の取組状況などを確認しながら、課題開発を行うことができた。生徒の実態に基づいたグループ編成や継続した取組、また環境設定やタイマー、手順表等の活用により、生徒が見通しをもって、自ら課題に取り組む姿が見られた。
よりよい授業づくり	高等部	将来の自立と社会参加を目指した高等部行事の見直し	・令和5年度に実施する行事について、目標や内容、教育課程上の位置付けを明確にして実施する。 ・今年度の状況を踏まえて次年度の行事計画を作成する。 ・校内研究で取り扱う「年間行事計画の見直し」と進捗状況と絡めて情報を共有する。	・教育課程上の位置付けについて、学習指導要領の特別活動や各教科の目標や内容と照らし合わせる。 ・教育活動の充実と業務の多忙化とのバランスを常に意識する。	B	新たな行事の実施に伴い、野外活動と修学旅行を5月に日程を変更し、それを踏まえて関係する教科等の計画の見直しを行うことができた。また、新たな体育的行事の実施を部会等で検討することができた。年間の高等部の教育活動の流れをイメージして情報共有ができたと感じているが、保護者への説明や事務室との連携など不十分な部分もあり、引き続き調整を図りたい。
安全・安心な学校づくり	教頭	勤務時間の適正な管理。	・勤務時間と休憩時間のけじめをつけた勤務を心がけ、習慣づけていく。 ・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を推進する。 ・時差勤務の一部改正に伴う、校内体制を整える。	・勤務時間外や休憩時間に業務を設定しないように、全職員で心がけていく。 ・行事等を含む学校業務のスリム化を、年間を通して検討・推進していく。 ・変更点を明確に示し、職員の働きやすさにつなげる。	B	・休憩時間の確保に注意を払うことはできたが、限りある時間内で業務を完了することについては課題が残った。 ・体育的・文化的行事の統合について、職員の意思確認のもと推進していくことができた。次年度からの実践において、課題を解決しながら進めるが、業務のスリム化を念頭において考えるように指南する必要がある。 ・時差勤務の変更点について、職員会議を通じて周知し、取得しやすい体制を整えることができた。

項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項	最終評価	評価結果及び今後の課題（最終）
よりよい授業づくり	総務	確かな学習支援が提供できる効率的な体制の整備。	・教材庫にある共有の教材を管理しやすくするために、破損したものや使えない教材を処分したり、高いところまで物が置ける棚に変えたりする。 ・かごやコンテナ等の教材の入れ物と、棚に写真等を貼って整理する。	・長期休業中に破損したものや使えなくなった教材を処分する日を設ける。（全職員に依頼） ・令和4年度に作成したチェックシートを使って、定期的に保管状況を確認する。 ・整理方法について、全職員に周知する。	A	・コンテナやかごを活用して定期的に教材室の整理を行った。 ・教材室用のラックを購入し、教材を保管するスペースを広げ、整理しやすい環境を整えた。
よりよい授業づくり	教務	児童生徒に合わせた日課表の改善	・日課検討委員会を立ち上げ、定期的に日課について検討する場をもつ。 ・必要に応じてアンケート等で意見を伺う。 ・日課とともに令和6年度の行事等についても検討する。	・年度当初の運営委員会で周知を図る。 ・検討委員会のメンバーは検討内容に応じて設定する。 ・スクールバスや給食等については、早々に検討を始める。	B	・日課に関するアンケートの結果を踏まえ、課題点や検討事項について話し合い、今年度の日課を継続することとした。 ・委員会で話し合い、新しい行事の概要を決定した。係分担や詳細案については今後検討していく。
安全・安心な学校づくり	指導安全	防犯・防災体制の充実	・さまざまな条件で避難訓練を実施する。 ・マニュアルの見直しと改善を図る。	・壁の崩壊、けが等やパニックになって動けなくなった児童生徒への対応など、想定される状況を複数考えて実施する。 ・より良いマニュアルになるよう、様々な角度から検証していく。	B	地震避難訓練では、避難経路安全確認係を設定し、避難経路の安全が確保されてから避難したり、不審者対応訓練では、犯人確保後に各部ごとに集まって安全確認したりするなど今までは違う内容での訓練ができた。引き渡し訓練では、引き渡し連絡方法を確認する連絡訓練とし、マチコミのアンケート機能を使用して実施できた。各種マニュアルについては、見直しに向けて話題にすることはできたが、改善には至らなかった。
安全・安心な学校づくり	指導安全	いじめの早期発見と丁寧な対応	・いじめに対するアンケートの実施や、素早い対応について検討する。 ・本校基本方針の周知徹底を図る。	・必要に応じて、いじめ不登校対策委員会を開催し組織的に対応する。適宜、スクールカウンセラーなどの関係者、関係機関とも連携する。 ・基本方針の周知徹底を実施することで、職員の意識を高め未然防止につなげる。	B	12月の心と体のアンケートでは、例年行っている紙でのアンケートに加え、担任による個別面談を実施し、生徒の気持ちを丁寧に聞き取ることができた。アンケートの実施に向けて、スクールカウンセラーと連携しアンケートや個別面談の質問内容や実施方法を確認し、実施できた。職員会議で、いじめ・不登校対策委員会の結果を報告するなど、いじめを積極的に認知し対応していくことを周知できた。今後も定期的に発信し未然防止の意識を高められるようにしていきたい。
安全・安心な学校づくり	進路	産業現場等における実習をはじめとする各進路行事の手引きの周知	・キャリア教育の促進を図り、手引きを作成する。 ・小学部から高等部までの職員や保護者に対する周知や啓発を行う。	・手引きを更新し、必要事項を精選する。 ・これまでの実績に合わせたニーズを反映する。 ・該当学年だけでなく幅広い職員へ周知の場を設定する。	B	手引きの準備はしていたが、誰でも容易に見られる状況にはなかったことが反省点である。周知の方法を工夫することは大切だと感じた。項目ごとにまとめた資料は配付したり、直接質問してくれた職員には説明したりすることができた。進路の情報は多いため、簡潔にまとめることは難しいことが分かった。

開かれた学校づくり	支援	研修会の実施と理容美容支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季研修の期間に、外部講師を招いて研修会を計画する。</li> <li>・理容美容支援を実施し、地域の理容美容店の利用につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の内容や方法について検討する。</li> <li>・職員のニーズ等を伝えながら、外部講師との打ち合わせを行う。</li> <li>・理容美容組合と連携して行い、実施後に組合の方にも意見を伺う時間を設ける。</li> <li>・支援グッズや環境設定の工夫をする。</li> <li>・参加者で地域の店舗の利用につながった児童生徒がいるかどうかを確認し、今後の改善点に繋げる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の村の相談支援員の方に講師を依頼し、「福祉の村と学校との連携」というテーマで夏季研修期間に研修会を実施できた。事前に職員にアンケートを取り、聞きたい内容を取り上げてもらうことで実りある研修になった。</li> <li>・理容美容組合の方に簡単なアンケートをとり、意見を伺う時間を設けた。地域での利用に繋がるよう、協力できる店舗の紹介や理美容師からのアドバイス等を紙面にして、保護者に伝えた。また、環境を工夫したことで、スムーズにカットができる児童生徒が増えた。参加者の中で、地域の理美容店を利用できるようになった生徒もいた。</li> </ul>
よりよい授業づくり	研修	校内研究をとおして、行事精選に伴う年間指導計画の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会と連携しながら、部ごとにみあいピック、フェスタの新たなあり方について検討する。</li> <li>・新たな行事計画をもとに、学年ごとに令和6年度以降の年間指導計画の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究担当者が各委員会で検討された内容を集約し、必要に応じて他の委員会や各部の担当者等との連絡、調整を行う。</li> <li>・学習指導内容表を活用しながら、年間指導計画の内容に偏りがいないか確認する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな行事のあり方について行事検討委員会と連携しながら検討し、計画の大枠を決めることができた。</li> <li>・新しい行事計画をもとに、各学年・教育課程ごとに令和6年度の生活単元学習の年間指導計画の見直しを行っている。行事の変更に伴い指導内容に偏りができないよう、学習指導内容表を活用した。今回作成した年間指導計画を来年度活用できるよう引継ぎし、周知していく必要がある。</li> </ul>
安全・安心な学校づくり	情報図書	個人情報の取り扱い方の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の個人情報の保護を確実にする。</li> <li>・学校全体での個人情報の取り扱い方の見直しをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県のセキュリティポリシーの改訂に沿って、情報の取り扱い方の書類の様式を見直したり、職員の意識改革を行ったりする。</li> <li>・授業内外で各種情報端末を活用していく中で、情報機器の取り扱い方や、より安全な使い方を考え、適切に運用していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県のポリシー改訂に合わせて、個人情報の運用管理規定と情報セキュリティポリシーを改訂し、適切な機器の運用方法を定めた。</li> <li>・校内での職員所有端末の使い方を改め、児童生徒の写真がインターネット上に保存されないようにした。</li> <li>・クラウドを使ったファイル共有機能を利用開始し、端末を自宅に持ち帰らずに済む方法を導入した。必要最低限の情報を扱うこと、端末は学校に置くことという意識を高めた。</li> </ul>
安全・安心な学校づくり	保健体育	学校事故の未然防止や的確・迅速な対応ができる保健管理の体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーに関するマニュアルや書類を見直し、改善する。</li> <li>・汚物処理グッズを各教室、特別教室に配置し、迅速に対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エビペンの保管場所がすぐ分かるように写真で表示し、対応マニュアルとセットで教室や昼食場所に掲示する。</li> <li>・飲食を伴う活動時においても職員によるチェックをする体制を整える。</li> <li>・誰でもすぐに対応できるようにグッズ入れの袋を統一する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エビペンについて、掲示の工夫により保管場所が周知できた。飲食を伴う活動計画表に関係職員が押印するように書式を整え運用できた。食物アレルギーの対応や手順等について岡崎市や他校について情報収集し本校の現状と課題を把握・共有できたが、今後専門医の助言もいただきながら検討を重ねる必要がある。</li> <li>・汚物処理グッズは、より使いやすくなり、嘔吐の際に迅速に対応できた。</li> </ul>
よりよい授業づくり	自立活動	確かな学習支援が提供できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初自立活動年間計画・年間指導計画について共通理解する。</li> <li>・教務部と連携し各部の実情にあった担当者間の連携について検討する。</li> <li>・職員のニーズに沿った研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に自立活動について職員会議などで周知し、随時、研修会の実施や担当者間の連携について呼びかけをしていく。</li> <li>・外部機関との連携を深め、専門性を高める機会を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動について、4月度職員会にて周知し、6、7、1月には職員向け自主研修会を予定通り実施できた。目標や指導内容の担当者連携について、教務部と連携しながら各部の実情に合わせて実施したが、進め方については、さらに有効な形を考えていく必要がある。</li> <li>・愛知県三河青い鳥医療療育センターを始めとする、外部専門家との連携が十分に取れ、ケース会や講演会をこれまで以上に実施できた。</li> </ul>

学校改善のための評価項目(学校関係者評価)

よりよい授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45分授業の日課の定着を図るとともに、課題の検証をしながら、児童生徒の豊かな学校生活につなげる。</li> <li>・ICT機器を活用した教材の作成と活用、情報共有を推進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45分授業の日課が定着し、連続する校時の利点を活かした授業展開をしている。</li> <li>・共通教材をはじめとしたICT教材が、児童生徒の学びやすさにつながっているのか、検討を重ねていく必要がある。</li> </ul>
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の多忙化解消を目指し、業務のスリム化を促進する。合わせて、けじめをつけた勤務設定を習慣づける。</li> <li>・合理的配慮を意識し、人権に配慮した児童生徒への指導や学習活動の展開に努める。</li> <li>・実行性の高い訓練の実施や、防災への意識を促進する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終施錠時刻を意識して、業務を進められるように努めることはできた。</li> <li>・人権教育について、各部の学習における取組や現職研修などを行い、日常の関わりについて振り返る機会を設けることができた。</li> <li>・災害レベルを想定した訓練や防災対策としての環境整備などを行い、校内の安全意識の向上を図ることができた。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校務における横のつながりを意識するとともに、関係機関との連携を活かし、高い教育効果を得られるように努める。</li> <li>・学校紹介や見学などの地域からの要請に応じるとともに、障害のある児童生徒の社会生活への理解へとつなげる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の特性に応じた教育活動が、地域に支えられていることを伝えるとともに、多くの関係機関により豊かな学習機会を設けることができた。</li> </ul>